

令和3年5月31日

学校法人三幸学園
仙台医療秘書福祉専門学校
校長 水口 俊彦 殿

学校関係者評価委員会
委員長 下屋 光洋

学校関係者評価委員会実施報告

令和2年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 下屋 光洋 (一般財団法人光ヶ丘愛世会光ヶ丘スペルマン病院 事務部長)
- ② 斉藤 誉弥 (山形県立河北病院 医事経営相談課)
- ③ 沼田 健一 (特別養護老人ホーム釜房みどりの園 施設長)
- ④ 宮下 有裕 (株式会社共立メンテナンス仙台支店 支店長)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

令和3年5月26日(会場 仙台医療秘書福祉専門学校 301教室)

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

令和2年度 学校法人 三幸学園 仙台医療秘書福祉専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 武藤 洋和

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 下屋 光洋

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、医療分野の学校として「医療現場で医療事務・診療情報管理を通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、医療分野として「相手のこうして欲しいを理解し、考え続ける人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

■学校運営について

方針・目標が全体に浸透しており、また運営体制もしっかり行われている。

医療機関、保育園や福祉施設の具体的な業務内容、業界状況を教職員研修や訪問を通じて、更に把握する必要がある。

■教育について

技能教育については就職率も高く(就職希望者は100%)、資格取得率も全国平均を超えており、実践的教育も行われている。またチーム担任制により複数教員が生徒の状況を把握し、バックアップできる体制を整えることができており、退学率が昨年度より減少した。

メディア授業を導入し、新たな教育方法が始動されたが、教職員のITリテラシーやPCスキルの差があり、効果的な活用ができていないことが課題のため、ITリテラシーやPCスキル研修を実施する必要がある。

併せて、卒業生の早期離職を減らす指導も必要である。

■その他

広報活動においては、少子化の時代においても、確実に入学者を獲得している。

地域活動・社会貢献のために、新たな取り組みを検討し、今後は卒業生支援などにおいて、より医療機関、保育園や福祉施設と連携を深めていく必要がある。

② 学校関係者評価委員会コメント

<下屋委員より>

・コロナ禍でも就職率100%や資格取得率も良い結果だと思うので、引き続き「あきらめない教育」を実践継続し、令和3年度の学生も同様の結果を出せるよう尽力頂きたい。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

① 課題

・各業界のニーズと求める人材像をタイムリーに把握し、生徒指導に反映する。

② 今後の改善方策

・医療機関、保育園や福祉施設の具体的な業務内容、業界状況を教職員研修や訪問を通じて把握する必要がある。

・医療機関、保育園や福祉施設への訪問・見学・実習、また教職員への訪問時対応研修や業界理解研修などを積極的に行うことで、業界のニーズを把握し、授業に反映していく。

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

<下屋委員より>

コロナ感染症の影響で多数の学科の実習受け入れがなされず、三幸学園の「あきらめない教育」に基づいた教育が生徒にできないのではないかと大変心配している。ぜひ、この状況下においても生徒の為にしっかりした教育の質の担保を行っていただきたい。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

- ・メディア授業や ICT 授業展開が常用化してきているが、教員間の PC スキルの差によって効果的な活用ができていない。
- ・情報システム化が構築されているが、IT リテラシーの差によって業務の効率化に繋がっていない。

② 今後の改善方策

- ・定期的な勉強会の実施により、運用方法の浸透と効率化を目指す

③ 特記事項

- ・Microsoft Teams や zoom を活用した、Web 会議や研修が常用化しているため、より活性化できるよう取り組む。
- ・Google Classroom の活用による情報共有の効率化を図っている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

<下屋委員より>

- ・他病院とのやりとりの際、Zoom を活用し実施していたが、こちらの意図が完全に伝わっているか不安だった。専門学校の授業において生徒の理解が重要であるため、可能な限り対面授業を実施してほしい。
- 学校より:メディア授業を余儀なくされた際、生徒の理解度を確認できるような仕組み作りが課題である。

姉妹校では文科省の委託事業により生徒のオンライン授業受講中の表情等から生徒の反応を数値化できるシステムを実験的に導入している。

<宮下委員より>

- ・会議を行う際には、情報漏洩に注意している。背景をカスタマイズする等の工夫もしていた。月に一度開催する寮長との Zoom 会議等の様々な会議で活用し、ようやく操作に慣れてきた。
- ・令和 2 年度は学生寮の歓迎会が開催できなかった為、今年度は Zoom を活用しリモートで実施した。
- 導入にあたり、メディア操作に不慣れな寮長は抵抗感を示していたが、リスク回避の為のレクチャーと伝え、理解を得た。
- ・授業においては、ランダムに指名し、参加の意識を高めさせることが有効だと感じている。

<沼田委員より>

- ・メディア通信では相手の反応が特に気になる。特に専門学校の実践的な授業においては、生徒の反応を見て瞬時の対応が必要だと思う。一人ひとりに合わせた対応ができるように授業を進めて欲しい。また、可能な限り対

面授業を実施してほしい。

→学校より:メディア授業の際は、チャットの積極的な活用や、質問のある生徒は視聴ルームに残ってもらうことで対策していたが、やはりリアルタイムでの解消は難しいため、課題が残る。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

① 課題

- ・生徒の変化やICT教育に対応できる、教職員の指導力向上が、より一層必要である。
- ・卒業生の早期離職をなくしていくことが必要である。

② 今後の改善方策

- ・卒業生による研修や講演会を実施し、生徒のキャリアプランの形成に役立てる。
- ・教職員に対し、生徒の実態に合わせた指導方法の研修会を実施する。

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

<齊藤委員より>

- ・早期離職の要因として、職業に対するギャップではなく「働く」ことに対するイメージができていないために状況に耐えられない新卒者が多いのではないかと。学生時代のアルバイト等にて、社会に出ることの厳しさを知り、就職前に慣れておくことが有効だと考える。

- ・卒業生として、実習での経験が活かしていると感じている。入職後、実習で経験したことが実際の業務に繋がっていると感じる機会が多くある。
- ・行政管轄の医療機関では、ジョブローテーションが行われることにより、組織や人によって新人教育への意欲が異なっている。近年、専門職が人事に関わり教育できるような試みがされている。

<下屋委員より>

- ・学校側の教育に全ての要因があるのではなく、採用したからには医療機関や施設等の就職先にも教育する責任があると考えます。

<沼田委員より>

- ・福祉業界は、努力が数字に表れない業種だからこそ、能力の高い人材ほどステップアップによる離職が起こりやすい。達成感を与えられるような仕組みづくりや働きやすい環境の構築が必要であると考えている。
- ・離職者よりも、受け入れる側である現場の考え方を考えることも必要である。

<宮下委員より>

- ・長所、短所を見極め、適材適所の運営を心掛けています。
- ・業務スキルに合わせて求めるレベルを調節し、どうしたらできるのかを考え、育てる意識を持ち受け入れている。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格（免許）取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- ・資格取得合格率のさらなる向上。
- ・卒業生との関係性の構築の強化。

② 今後の改善方策

- ・資格合格にむけての対策会（教科会）を設定、また全国模試を実施し、合格率の向上を目指す。
- ・卒業生講演会等を実施し、生徒と卒業生とのコミュニケーションの機会を増やしていく。

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

<齊藤委員より>

卒業生同士の繋がりはあるため、学校へ貢献できることがあれば、協力していきたい。
学校から卒業生への発信や依頼をもっとして頂ければと感じている。

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	3
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	2
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

① 課題

- ・卒業生への支援体制の充実化と支援体制及び Sanko Link(同窓会組織)の認知強化。
- ・高校時代の学習環境やメディア授業の取り組み等の現状把握。

② 今後の改善方策

- ・卒業後も Google Classroom の活用をし、求人紹介や就業定着率のアンケートを実施する。
- ・高校訪問等にて学生のニーズや現状をヒアリングする。
- ・Sanko Link(同窓会組織)による、同窓会の実施。

③ 特記事項

- ・特になし

③ 学校関係者評価委員会コメント

<学校より>

個別でのサポートが必要な軽度の発達障害や精神障害をもった生徒の入学が増加している。そのような生徒の就職受け入れに関して、支援する取り組みはあるか。

<下屋委員より>

- ・ハローワークと連携し、聾学校の実習受け入れをする等のマッチングに尽力している。
- ・事前共有が必要ではあるが、今後障がい者枠で採用できるように準備を進めているため、紹介してほしい

<沼田委員より>

- ・採用している。
- ・採用にあたり、どのように接したらよいのか学校からの情報がほしい。

→どのような仕事ができるか施設側も考え、活躍の場を与えたい。そのための情報共有が重要である。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	3

① 課題

- ・防災対策の強化へ向けた取り組みを、継続・改善していく。

② 今後の改善方策

- ・防災対策の備品・設備の再点検を実施。
- ・避難訓練の実施。
- ・災害マニュアルを全教職員生徒に配布。

③ 特記事項

- ・避難場所は孝勝寺

③ 学校関係者評価委員会コメント

<学校より>

防災訓練はどのように実施しているか。

<宮下委員より>

- ・ホテル部門では年に1度実施しているが、ゲストがいるため、点検のみとなっている。
- ・学生寮では年に1度、事前に寮生に周知の上実施している。集団生活であるため、身を守る方法を教える義務があると考えている。寮生の参加率を上げるために、毎年4～5月に歓迎会と同時に実施するなどの工夫も心掛けている。

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

- ・学科により募集状況、充足率の差がある。
- ・コロナ禍により留学生の募集が難しかった為、留学生への支援制度や受け入れ状況を把握しておく。

② 今後の改善方策

- ・オンラインオープンキャンパスの更なる充実。
- ・高校訪問やガイダンスでの学生ニーズのヒアリング。

③ 特記事項

- ・特になし

③ 学校関係者評価委員会コメント

<齊藤委員より>

- ・オンラインでの卒業生講話等のイベントやパンフレット等の撮影に協力したいと感じているので、ぜひ積極的に卒業生に依頼をして欲しい。

<下屋委員より>

- ・18歳人口が減少する中で、生徒の確保ができています。いつ来校しても、生徒の挨拶は素晴らしい。今後も、多くの入学対象者に学校の良さを伝えていってほしい。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

現在、第2次中期計画(2018年度～2022年度)の対象期間中であるが、当該計画を着実に実行すると共に今後は当該計画の公開に向けて着手していく予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

・特になし

④学校関係者評価委員会コメント

・特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

- ・個人情報の管理・保護

② 今後の改善方策

- ・学園システム推進室との連携強化により、セキュリティーを上げていく

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題

- ・コロナ禍によりボランティア等の機会が減ってきているため、産学連携等の機会を増やす必要がある。

② 今後の改善方策

- ・制作物（新型コロナ感染予防対策ポスターや保育壁面装飾や遊具）の提供等を継続的に実施し、産学連携を強化していく。

③ 特記事項

- ・教育訓練給付金対象者が2名（介護福祉科）在籍している
- ・制作物（新型コロナ感染予防対策ポスターや保育壁面装飾や遊具）を医療機関や保育園等へ提供した

③ 学校関係者評価委員会コメント

<学校より>

コロナ禍において、産学連携やボランティア等の生徒の活躍の場が減少している。この状況下で、どのような形で生徒に活躍や経験の場を与えることができるか。

<齊藤委員より>

- ・感染防止対策の観点より、対面による活動や院内支援は難しい。
- 物品の支援（例：フェイスシールドの作成および納品）であれば歓迎する。

<下屋委員より>

- ・ホスピスでのシスターと一緒にボランティア活動は可能。
- ・感染防止ポスター等、生徒が作成した掲示物の支援は歓迎する。

<沼田委員より>

- ・感染防止対策の観点より、対面による支援は難しい。ワクチン接種後に物品の支援であれば可能。

(11)国際交流(必要に応じて)

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	3
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3
学内で適切な体制が整備されているか	3

① 課題

- ・コロナ禍により留学生の受け入れが難しくなっている
- ・日本語学校等への本校の認知拡大
- ・教職員の留学生・制度の理解度をより一層上げる必要がある
- ・留学生の受け入れ先(実習・就職先)の確保

② 今後の改善方策

- ・定期的な日本語学校訪問の実施。
- ・教職員の留学生受け入れに関する研修会の実施
- ・実習指導者研修会において、留学生の受け入れ理解を深めていただく働きかけを実施
- ・実習先訪問の際に、留学生への受け入れ状況をヒアリングし、理解を深めていただく。

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

<下屋委員より>

- ・令和2年度の卒業生に関しては就職率も良く大変素晴らしい結果になったが、コロナ禍の影響を強く受けている令和2年度や令和3年度の入学生については懸念がある。
- ・卒業後も生徒との関係性が良好な様子が見えるため、今後も引き続き関係構築に努めてほしい。
- ・三幸学園の教育理念「技能と心の調和」に基づき、適切な運営が出来ていると感じているため、ぜひ、より良い運営を継続して欲しい。

評価の結果、課題、委員の方々のご助言から今後強化していく点として、①コロナ禍ということもあり、メディア授業の導入がなされ、ICT教育が推進されているが、対面授業も重視し、生徒のニーズに耳を傾けること。②取引先様へ訪問し、現場の実態を把握し、卒業生や実習先、就職先との関係性を強化していくこと。この2点が再確認された。令和2年度はコロナ禍において、業界のみならず、社会全体、そして学校運営にとっても大きな変化の1年であったが、就職率や検定取得も安定した数値となり、手法や方法に変化はあったものの、理念に基づいて取り組むことの重要性が再認識された。今後も時代に合わせて変化していきながら、より良い学校運営と高い検定合格率・就職率の継続をしていく。